

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13110

研究課題名（和文）保健水準の向上を目標とする学校健診情報の利活用に向けた社会との相互理解の形成

研究課題名（英文）Formation of societal mutual understanding for the utilization of school health checkup data with the goal of improving health standards

研究代表者

井出 和希 (Ide, Kazuki)

大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任准教授（常勤）

研究者番号：60796275

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：学校健診情報を要約したレポートを還元している連携自治体および全国の保護者を対象とした調査を通して、家庭での情報の活用や意識、懸念についての基礎的な情報を得た。アウトリーチを通して、対話の場を形成すると共に、継続的に言葉を交わしながら研究や実践的な取り組みを更新していく基盤を形成することができた。加えて、人々が多様な媒体を通して触れる情報の動向やその背景の分析をし、プレプリントやプレスリリースの実態を明らかにした。これらを起点として、専門家コミュニティに留まらず、非専門家を含めたコミュニケーションを通して相互理解の形成に向けた素地を形成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題における成果の学術的意義は、1) 学校健診情報を活用する際の有益性だけでなく保護者の抱く懸念についても明らかにすることで、倫理的・社会的課題を考慮する際に参考となる知見を集積できたこと；2) 人々が日々触れる情報（例えば、健康にまつわる情報）についてその一端を具体的に分析することで実態を把握できたことにある。また、社会的意義は、成果が相互理解の形成に資することにより、健診情報の利活用に留まらず、より幅広く情報との付き合い方について今の具体的なあり様から対話を続ける基盤を形成したことにある。

研究成果の概要（英文）：Working with partner municipalities through a survey of parents who had completed and returned reports which summarized school health checkup information, plus additional nationwide data, I obtained basic information on the use of information at home, as well as parents' attitudes and concerns. Through outreach, I was able to develop a basis for dialogue and strategies for updating research and practical initiatives by means of ongoing verbal exchanges. In addition, we analyzed the trends and background of the information with which people come into contact through various media, and we also clarified the status of preprints and press releases. Using this information as a starting point, I was able to develop the groundwork towards mutual understanding through communication not only within the professional community, but also with non-professionals.

研究分野：健康情報学

キーワード：健康情報学 社会医学 予防医学 疫学 学校保健 ELSI 学術情報流通 質問紙調査

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

学校健康診断(学校健診)は、全国ほとんど全ての児童・生徒を対象とした日本独自の制度である。学校健診情報を集積すれば膨大な健康情報資源が形成され、その利活用は子供の将来的な健康管理や疾病予防等に大きく寄与する可能性がある。しかし、現在、学校健診情報の大部分は、一定期間保存した後に廃棄されており、貴重な情報資源は失われている。申請者らは、連携自治体と共に、保護者らにレポートを還元している。

データの有効活用においては、健康情報にまつわる情報を取り巻く社会動向を把握することも不可欠である。一方で、プレプリントやプレスリリースといった多様な情報の根拠や発信された情報と人々の関わりについて明らかにする取り組みは不足している。

2. 研究の目的

本研究では、学校健診情報を保護者へ伝えること(情報還元)に加えて、学校健診情報の集積と還元に対する期待や懸念について調査し、情報の円滑な利活用に向けて社会との相互理解を形成する。調査結果の定性的・定量的分析によって学術的成果を蓄積し、情報還元の質も向上させることを目指した。加えて、研究者と社会との対話の機会を設けたり、その基盤となる知見を蓄積したりすることで継続的な取り組みに繋げることも目的とした。

3. 研究の方法

1 年目：a) 研究計画に基づき連携自治体及び全国の保護者を対象とした質問紙調査を遂行した。学校健診情報を要約したレポートを還元している連携自治体を対象とした調査においては、17自治体(79校、7495名)の保護者を対象に11項目の調査票を配布した。調査票の内容は、回答者の社会的背景、健康に対する関心の変化、健康情報の利活用に対する認識とした。回収は各学校・自治体の担当者を介して行った。回答のコーディング及びデータセット化の後、予備的解析を行った。b) 全国の保護者を対象とした質問紙調査においては、250000名を対象として調査の案内を送付し、30000名からスクリーニング調査に対する回答を得た。このうち、中学3年生から高校3年生の保護者を対象として学校健診情報の利活用に関する認識についての本調査を送付した。

2 年目：「健康情報の利活用・パーソナルヘルスレコードに対する認識と希望」として、全国47都道府県を対象とした質問紙調査を遂行した。全国規模の調査については、学会において発表し、並行して前年度に行った17自治体(79校、7495名)の保護者を対象とした調査結果の詳細な分析と論文化を進めている。全国規模の調査では、34627名に回答依頼メールを送付した。

3 年目：本研究課題において目標とする「保健水準の向上」や「社会との相互理解の形成」においては、受け手にとって役立つ情報を提供することも重要である。その際、受け手が多様な媒体を通して触れる情報についても知る必要がある。特に、未査読論文(プレプリント)は、新型コロナウイルス感染症の拡がりと共に脚光を浴び、その速報性から情報の根拠として参照されることもあった。一方、その動向や質について留意すべき点は十分に検討されていない。そこで、主要なプレプリントサーバ(arXiv、ChemRxiv、medRxiv、bioRxiv、Social Science Research Network(SSRN)、Preprints with The Lancet(SSRNの一部であるが、医学系研究に焦点を絞ったプラットフォームであるため区分した))を対象として、新型コロナウイルス感染症に関わるプレプリントの数の経時的な変化(公開動向)を分析した。

4 年目：3年目から継続して主要なプレプリントサーバの動向を調査し、併せて社会に対して大きな影響を及ぼした事例について整理を進めた。加えて、同年に注目を集めた健康にまつわる情報や関連する政策についてまとめた。それらの結果については、非専門家向けにも情報共有を図る機会を設けることとした。

5 年目：人々が触れる情報の根拠に目を向けた分析を進めた。具体的には、報道の根拠としても利用されるプレスリリース(大学や研究機関から出されたもの)に注目した。学校保健の観点でも重要な課題である「新型コロナウイルス感染症」に関連する301件のプレスリリースを抽出し、論文情報が記載されているかどうかを調べた。識別子(DOI)情報、学術誌名、プレプリントといった記載からフラグを立て、確認作業を経てデータセットを整えた。

4. 研究成果

1 年目：調査票の回収率は51.6%であり、59.5%の保護者がレポートを家庭で話題にし、47.7%が子の健康に対する関心が高まったと回答した。情報の利活用については、71.2%が活用すべきと回答し、内41.7%が「健康管理や病気の予防に繋がる」との認識を有していた。一方、1.5%の回答者は活用すべきでないと答え、個人情報保護に対する懸念が理由の一つとして挙げられた。アウトリーチや対話の場としては、第2回仙北インパクトチャレンジ(秋田県仙北市)におけるブース出展およびサイエンスカフェ、京都大学アカデミックデイ2018(京都府京都市)における展示等を行った(学会発表等1-6)。

2 年目：探索的に行った7自治体の保護者を対象とした調査結果を論文としてまとめた(論文

等 1)。全国規模の調査においては、5394 名（男性 2699 名、女性 2695 名）が回答した。12.3%の回答者が既に健康関連アプリを利用している一方、PHR という単語を認知している回答者は 7.5%であった。自身および子どもの情報を含む PHR の利用に対しては、44.4%の回答者が利用したいと回答した。また、「将来の健康状態の予測や注意点を知ること」に対する希望が最も高頻度に認められた（37.7%）。なお、結果の解釈にあたり、健康関連アプリの利用者は 12.3%に留まり、PHR という単語の認知度も低いことから、調査時に「パーソナルヘルスレコード」に関する説明が十分であったかという点には留意を要する。回答として挙げられた希望を満たすと共に、同調査において抽出された「個人情報の取り扱いに係るセキュリティ上の問題」といった懸念事項についても対応し、相互理解を形成することが重要であると考えられた（**学会発表等 7**）。併せて、データベース疫学に取り組む際の基礎を学ぶことのできる書籍を出版した（**書籍 1**）。

3 年目：分析対象としたプレプリントサーバで公開された原稿数は、2020 年 9 月末時点で 16,066 報に及んだ。加えて、取り下げから一定期間を経たのちに原稿そのものが削除されるものやダウンロード後の原稿からは取り下げられたものであるかどうか判断できないものがあることも明らかとなった。これらの問題や情報を利用する側の留意を含め、論考において整理した（**論文等 2**；**学会発表等 8**；**その他 1**）。

4 年目：継続的な調査では、2021 年 6 月末までに 29,503 報の新型コロナウイルス感染症にまつわるプレプリントが出版されていることが明らかとなった。また、新型コロナウイルス感染症治療薬にまつわる複数のプレプリント（Research Square や SSRN にアップロードされた後に取り下げられた研究結果）が社会に対して影響を及ぼした事例も観察された。分析の結果からは、取り下げ後の追跡性以外に、批判的な文脈以外でも継続的に引用されてしまう問題が抽出された。健康にまつわる情報や関連する政策についての取り組みも含め、得られた成果は学会等の専門家コミュニティで公表するだけでなく、非専門家向けの場や専門職向けの媒体で共有し、情報発信を図った（**解説・総説 1-3**；**学会発表等 9, 10**；**その他 2**）。併せて、先端的な科学技術がメディアにおいてどのように取り扱われているかについての国際調査を行い、その結果を学術論文として公表した（**論文等 3**）。

5 年目：分析の結果、論文情報が明確に示されているプレスリリースは 44.2%に留まった。このことから、何に基づく情報であるかを精査することの重要性が示唆された。研究室における探索的な実験の結果を速報的に伝えているケースもあり、さまざまな段階にある情報が発信されていることも確認した。この結果をもとに、「目利きになるための第一歩」として情報に触れる際の観点を非専門家向けに共有した（**学会発表等 12**）。併せて、幅広く社会動向とその背景にある情報について、薬剤師をはじめとした専門職向けの情報発信を行った（**解説・総説 4-14**）。学術出版を取り巻く環境の変化と影響や政策と医療、社会の関係性に係る分析結果を含め、学会等の専門家コミュニティにおいても成果を公表した（**論文等 4-6**；**学会発表等 11, 13**）。

総括：2018 年度から 2022 年度の研究期間全体を通して、1) 学校健診情報を要約したレポートを還元している連携自治体および全国の保護者を対象とした調査、2) サイエンスカフェを含むアウトリーチ、3) 人々が多様な媒体を通して触れる情報の動向やその背景の分析を推進した。これらを通して、コロナ禍を経た社会との相互理解の形成に向けて多面的に取り組む、付随する成果を生み出すことができた。

出版物等（主要成果を抜粋）

論文等

1. **Ide K**, Yoshida S, Kimura T, Oita Y, Kawakami K. The general understanding and perceptions of the practical use of school health records: A questionnaire survey of parents from seven local municipalities in Japan. *School Health*. 2020; 16: 33-42.
2. **Ide K**, Koshihara H, Hawke P, Fujita M. Guidelines are urgently needed for the use of preprints as a source of information. *J Epidemiol*. 2021; 31: 97-99.
3. **Ide K**, Matsuoka N, Fujita M. Ethical aspects of brain organoid research in news reports: An exploratory descriptive analysis. *Medicina (Kaunas)*. 2021; 57(6): 532 (6 pp).
4. Hatta T, **Ide K**, Misao F, Ikka T. Financial risks posed by unproven stem cell interventions: Estimation of refunds from medical expense deductions in Japan. *Stem Cell Rep*. 2022; 17(5):1016-1018.
5. **井出和希**, 林和弘. オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する「Predatory Journal」問題 - 実態、動向、判断の観点 -. *STI Horizon*. 2022; 8(2): 38-43.
6. Fujita M, Hatta T, **Ide K**. Current status of cell-based interventions in Japan. *Cell Stem Cell*. 2022; 29(9): 1294-1297.

解説・総説

1. **井出和希**. 第1回:「緊急事態」ってなんだっけ・・・～身近な政策にまつわる情報はどこにある?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (1): 149-153.
2. **井出和希**. 第2回:「0410 対応」と薬局のこれから～この動きは一時的なものじゃない・・・!?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (2): 334-337.
3. **井出和希**. 第3回:幹細胞と新型コロナウイルス感染症～例の話題はどうなった?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (3): 504-507.
4. **井出和希**. 第4回:ワクチン接種証明書アプリ～世に出るまでの議論や社会に対する影響は?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (5): 1711-1716.
5. **井出和希**. 第5回:治療薬にまつわる企業発信の情報～中立性、その後の報道をどう考える?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (6): 1902-1906.
6. **井出和希**. 第6回:3回目?4回目?～新型コロナワクチンの追加接種について、今分かっていることは?～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (7): 2048-2053.
7. **井出和希**. 第7回:4回目接種、対象者はどのように決まった?～今分かっていることを整理する～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (8): 2288-2291.
8. **井出和希**. 第8回:「ウイルス対策製品」って実際どうなの?～行政が動いた事例から考える～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (9): 2414-2417.
9. **井出和希**. 第9回:「ウイルス対策製品」のエビデンスって?～論文から読み解いてみる～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (10): 2612-2615.
10. **井出和希**. 第10回:そもそも「情報」はどのような過程を経て、世の中に出てくるの?～コロナ禍の実例も踏まえて基本を押さえる～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (11): 2808-2811.
11. **井出和希**. 第11回:専門家による審査を受けていない研究成果?～コロナ禍で活用が進んだ「プレプリント」とは～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (12): 2938-2941.
12. **井出和希**. 第12回:審査を受けていないプレプリントと社会の関わり～あの治療薬にまつわる混乱にも影響を及ぼしていた!?(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2022, 73 (13): 3146-3149.
13. **井出和希**. 第13回:新しい技術と私たちの生活～「心地よい」導入と薬剤師の役割～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2023; 74(1): 150-153.
14. **井出和希**. 第14回:曖昧な情報と社会と薬剤師～よりみちを振り返る～(連載 薬剤師の知っ得りテラシー). 薬局. 2023; 74(2): 323-326.

書籍

1. 漆原尚巳, 田中司郎, 川上浩司(監修); **井出和希**, 古閑 晃(監訳). ストロムの薬剤疫学-Textbook of Pharmacoepidemiology-. 東京: 南山堂, 2019.

学会発表等

1. **井出和希**. 学校健診データから将来の健康を考える. 京都大学アカデミックデイ 2018, 2018年9月.
2. **井出和希**, 尾板靖子, 川上浩司. 健康・保健教育の向上を目標とする学校健診情報の還元に向けた保護者ニーズの探索. 日本学校保健学会 第65回学術大会, 2018年11月. [招待あり]
3. **井出和希**, 吉田都美, 尾板靖子, 川上浩司. 学校健診レポートの有用性と健康情報の利活用に対する認識: 連携17自治体を対象とした質問紙調査. 日本学校保健学会 第65回学術大会, 2018年11月.
4. 川添 晋, 尾板靖子, **井出和希**, 吉田都美, 川上浩司. 学校健診データベース化及び個人・自治体向けレポート返却の取組み. 日本学校保健学会 第65回学術大会, 2018年11月.
5. 吉田都美, **井出和希**, 尾板靖子, 川上浩司. 出生体重と中学3年時の肥満との関連: 母子保健情報と学校健診情報の接続による疫学研究. 日本学校保健学会 第65回学術大会, 2018年11月.
6. **井出和希**. 学校健診情報の活用に向けた自治体・市民との相互理解の形成. 第28回 KYOTO オープンサイエンス・ミートアップ, 2019年2月. [招待あり]
7. **井出和希**, 吉田都美, 尾板靖子, 川上浩司. 健康情報の利活用・パーソナルヘルスレコードに対する認識と希望: 全国47都道府県を対象とした質問紙調査. 日本学校保健学会 第66回学術大会, 2019年11月.
8. **井出和希**. 健康情報の根拠となる学術誌の質の評価: 書誌データベースを活用した量的分析. 第20回日本抗加齢医学会総会, 2020年9月.

9. **井出和希**, 岸本充生. 「研究成果」をどう伝え、どう受け止める? 新型コロナウイルス感染症にまつわる様々な事例から考える . SpringX 超学校. 2022 年 1 月.
10. **井出和希**. 新型コロナウイルス感染症関連プレプリントの公開動向と薬学関連領域に対する影響: 探索的事例検討. 日本薬学会第 142 年会, 2022 年 03 月.
11. **井出和希**. 研究の伝え方、伝わり方 - 学術出版の変遷から考える - . 聖路加国際大学 FDSD 研修会. 2022 年 8 月. [招待あり]
12. **井出和希**, 岸本充生. コロナ禍における研究情報の発信を振り返る 「プレスリリース」の目利きになろう . SpringX 超学校. 2022 年 10 月.
13. **井出和希**. 学術出版の多様化と社会における情報の取り扱い-新型コロナウイルス感染症にまつわる事例から考える . 第 45 回日本分子生物学会年会, 2022 年 12 月. [招待あり]

その他

1. **井出和希**. 倫理の窓から見た iPS 細胞: 新型コロナウイルス感染症と論文を「審査する」営み. CiRA ニュースレター (vol. 44) 2021: 9.
2. **井出和希** (専門家コメント掲載). コロナで急増「査読前論文」世界で 1 万 6 千本以上 査読前論文の公開急増 利点あるが・・・ . 朝日新聞 (2021 年 7 月 11 日朝刊 特設 C, 同 7 月 14 日電子版), 26.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計71件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Honjo Y, Ide K, Takechi H.	4. 巻 22
2. 論文標題 Most families tend to realize progress of Alzheimer ' s disease when behavioral and psychological symptoms are obvious.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 317-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12815	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatta T, Ide K, Misao F, Ikka T.	4. 巻 17
2. 論文標題 Financial risks posed by unproven stem cell interventions: Estimation of refunds from medical expense deductions in Japan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Stem Cell Rep.	6. 最初と最後の頁 1016-1018
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2022.03.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井出和希, 林和弘.	4. 巻 8
2. 論文標題 オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する「Predatory Journal」問題 - 実態、動向、判断の観点 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 STI Horizon.	6. 最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15108/stih.00299	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Honjo Y, Ide K, Takechi H.	4. 巻 22
2. 論文標題 Day service use and improved serial 7 and verbal fluency scores in patients with Alzheimer ' s disease.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 659-665
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12868	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita M, Hatta T, Ide K.	4. 巻 29
2. 論文標題 Current status of cell-based interventions in Japan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cell Stem Cell.	6. 最初と最後の頁 1294-1297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stem.2022.08.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希, 林和弘, 小柴等.	4. 巻 No.326
2. 論文標題 ブレダトリージャーナル判定リストの実態調査.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NISTEP RESEARCH MATERIAL.	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15108/rm326	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第4回: ワクチン接種証明書アプリ~世に出るまでの議論や社会に対する影響は?~ (連載 薬剤師の知り得りテラシー).	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15104/J01461.2022170299	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第5回: 治療薬にまつわる企業発信の情報~中立性、その後の報道をどう考える?~ (連載 薬剤師の知り得りテラシー).	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 152-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15104/J01461.2022194847	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第6回：3回目？4回目？～新型コロナワクチンの追加接種について、今分かっていることは？～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 138-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2022206464	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第7回：4回目接種、対象者はどのように決まった？～今分かっていることを整理する～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 202-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2022237124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第8回：「ウイルス対策製品」って実際どうなの？～行政が動いた事例から考える～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2022266005	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第9回：「ウイルス対策製品」のエビデンスって？～論文から読み解いてみる～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2022302093	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第10回：そもそも「情報」はどのような過程を経て、世の中に出てくるの？～コロナ禍の実例も踏まえて基本を押さえる～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 162-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2023000618	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第11回：専門家による審査を受けていない研究成果？～コロナ禍で活用が進んだ「プレプリント」とは～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 100-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2023028799	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第12回：審査を経していないプレプリントと社会の関わり～あの治療薬にまつわる混乱にも影響を及ぼしていた！？～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/J01461.2023043070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 74
2. 論文標題 第13回：新しい技術と私たちの生活～「心地よい」導入と薬剤師の役割～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/ph.2023010030	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 74
2. 論文標題 第14回：曖昧な情報と社会と薬剤師～よりみちを振り返る～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 163-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15104/ph.2023020036	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Matsuoka N, Fujita M.	4. 巻 57
2. 論文標題 Ethical aspects of brain organoid research in news reports: An exploratory descriptive analysis.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medicina (Kaunas).	6. 最初と最後の頁 532 (6 pp)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/medicina57060532	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kunitomi Y, Nakashima M, Seki T, Ide K, Kawakami K.	4. 巻 29
2. 論文標題 Intergenerational comparison of 5-HT3RA in the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting in gastric cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy: An observational study using a Japanese administrative claims database.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Support Care Cancer.	6. 最初と最後の頁 3951-3959
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-020-05958-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第3回：幹細胞と新型コロナウイルス感染症～例の話題はどうなった？～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 152-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第2回：「0410対応」と薬局のこれから～この動きは一時的なものじゃない・・・！？～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 73
2. 論文標題 第1回：「緊急事態」ってなんだっけ・・・～身近な政策にまつわる情報はどこにある？～（連載 薬剤師の知っ得りテラシー）.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 149-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第12回：メタアナリシス（連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる）.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 121-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第11回：非劣性試験（連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる）.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 106-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第10回: 臨床研究における、割合、率、比の違い(連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 106-112
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第9回: クラスターランダム化(連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 113-120
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第8回: ランダム化臨床試験の限界(連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 150-158
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第7回: 新型コロナウイルス感染症のワクチンができるまで(後編)(連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでもみる).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 153-161
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 第6回: 新型コロナウイルス感染症のワクチンができるまで(前編)(連載 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保高 徹生, 村上 道夫, 仲村 健太郎, 加茂 将史, 内藤 航, 竹下 潤一, 井元 清哉, 大竹 文雄, 井出 和希, 岸本 充生, 粥川 準二.	4. 巻 31
2. 論文標題 企画セッション開催報告 マスギャザリングイベントにおけるリスク評価・管理 検査とワクチンを事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リスク学研究.	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11447/jjra.SRA-0393	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Koshiba H, Hawke P, Fujita M.	4. 巻 31
2. 論文標題 Guidelines are urgently needed for the use of preprints as a source of information.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Epidemiol.	6. 最初と最後の頁 97-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200506	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Fujiwara T, Shimada N, Tokumasu H.	4. 巻 53
2. 論文標題 Influence of acetaminophen on renal function: A longitudinal descriptive study using a real-world database.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int Urol Nephrol.	6. 最初と最後の頁 129-135
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11255-020-02596-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nifli AP, Tsolaki M, Tournoy J, Ide K.	4. 巻 11
2. 論文標題 Editorial: Cognitive impairment: Therapy momentum in the continuum of life.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Front Pharmacol.	6. 最初と最後の頁 618344 (2 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphar.2020.618344	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Ono Y, Furukawa TA.	4. 巻 11
2. 論文標題 Age-related changes in item responses to the Patient Health Questionnaire-9: Evidence from the National Health and Nutrition Examination Survey.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Front Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 723 (9 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2020.00723	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoki Y, Kawasaki Y, Ide K, Shimizu Y, Sato S, Yokoyama J.	4. 巻 6
2. 論文標題 Landiolol hydrochloride for prevention of atrial fibrillation during esophagectomy: A randomized controlled trial.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JA Clin Rep.	6. 最初と最後の頁 34 (9 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40981-020-00338-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Honjo Y, Ide K, Takechi H.	4. 巻 20
2. 論文標題 Use of day services improved cognitive function in patients with Alzheimer 's disease.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics.	6. 最初と最後の頁 620-624
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagai K, Ide K, Kawasaki Y, Tanaka-Mizuno S, Seto K, Iwane S, Eguchi Y, Kawakami K.	4. 巻 50
2. 論文標題 Estimating the cost-effectiveness of screening for hepatitis C virus infection in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hepatology Res.	6. 最初と最後の頁 542-556
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hepr.13478	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honjo Y, Ide K, Takechi H.	4. 巻 20
2. 論文標題 Medical interventions suppressed progression of advanced Alzheimer 's disease more than mild Alzheimer 's disease.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int.	6. 最初と最後の頁 324-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13883	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる「第5回: カプランマイヤー曲線と患者の半分が回復するまでの時間」.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる「第4回: 介入と曝露, ピコとペコ」.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 503-509
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 72
2. 論文標題 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる「第3回: ハザード比, 信頼区間, 統計学的に有意」.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 147-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希.	4. 巻 44
2. 論文標題 倫理の窓から見たiPS細胞: 新型コロナウイルス感染症と論文を「審査する」営み.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CiRAニュースレター.	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 71
2. 論文標題 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる「第2回: 盲検化, 主要評価項目, ITT」.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 131-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井匠, 井出和希.	4. 巻 71
2. 論文標題 毒舌妻と統計家 臨床試験論文を読んでみる「第1回: ランダムに分ける」.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 薬局.	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Yoshida S, Kimura T, Oita Y, Kawakami K.	4. 巻 16
2. 論文標題 The general understanding and perceptions of the practical use of school health records: A questionnaire survey of parents from seven local municipalities in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 School Health.	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai K, Matsubayashi K, Ide K, Seto K, Kawasaki Y, Kawakami K.	4. 巻 40
2. 論文標題 Factors influencing placebo responses in rheumatoid arthritis clinical trials: a meta-analysis of randomized, double-blind, placebo-controlled studies.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clin Drug Invest.	6. 最初と最後の頁 197-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40261-020-00887-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Joo WJ, Ide K, Nishiyama K, Seki T, Tanaka H, Tsuchiya J, Ito N, Yoshida K, Kawakami K.	4. 巻 7
2. 論文標題 Prediction of the neurological outcome using regional cerebral oxygen saturation in patients with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation after out of hospital cardiac arrest: a multicenter retrospective cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acute Med Surg.	6. 最初と最後の頁 e491 (7 pages)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ams2.491	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima M, Ide K, Kawakami K.	4. 巻 49
2. 論文標題 Laparoscopic versus open repair for inguinal hernia in children: a retrospective cohort study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Surg Today.	6. 最初と最後の頁 1044-1050
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-019-01847-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yonekura H, Ide K, Kanazawa Y, Takeda C, Nakamori Y, Matsunari Y, Sakai M, Kawakami K, Kamei M.	4. 巻 9
2. 論文標題 Use of preoperative haemostasis and ABO blood typing tests in children: A retrospective observational study using a nationwide claims database in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e032306 (8 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2019-032306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Peter Brown, RELISH Consortium, Yaoqi Zhou. (contributed as a RELISH Consortium member)	4. 巻 2019
2. 論文標題 Large expert-curated database for benchmarking document similarity detection in biomedical literature search.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Database.	6. 最初と最後の頁 baz085 (66 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/database/baz085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Ono Y, Furukawa TA.	4. 巻 9
2. 論文標題 Responses to depressive symptom items exhibit a common mathematical pattern across the European populations.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 14923 (9 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-51499-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoki Y, Ide K, Nakajima F, Kawasaki Y, Fujita Y, Morimoto E, Yokoyama J.	4. 巻 31
2. 論文標題 Esophagectomy surgical Apgar score may not be associated with postoperative morbidity.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Semin Thorac Cardiovasc Surg.	6. 最初と最後の頁 574-580
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1053/j.semtcvs.2018.12.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Ono Y, Furukawa T.	4. 巻 9
2. 論文標題 Distribution of psychological distress is stable in recent decades and follows an exponential pattern in the US population.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 11982 (10 pp)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-47322-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mizuno K, Takeuchi M, Kanazawa Y, Kitamura M, Ide K, Omori K, Kawakami K.	4. 巻 129
2. 論文標題 Recurrent laryngeal nerve paralysis after thyroid cancer surgery and intraoperative nerve monitoring.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Laryngoscope.	6. 最初と最後の頁 1954-1960
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/lary.27698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakashima M, Ide K, Kawakami K.	4. 巻 14
2. 論文標題 Comparison of standard initial dose and reduced initial dose regorafenib for colorectal cancer patients: A retrospective cohort study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Target Oncol.	6. 最初と最後の頁 295-306
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11523-019-00642-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Yamada H, Ono Y, Furukawa TA.	4. 巻 18
2. 論文標題 Distributional patterns of item responses and total scores on the PHQ-9 in the general population: data from the National Health and Nutrition Examination Survey.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 108 (9p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-018-1696-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yonekura H, Seto K, Ide K, Kawasaki Y, Tanaka S, Nahara I, Takeda C, Kawakami K.	4. 巻 126
2. 論文標題 Preoperative blood tests conducted prior to low-risk surgery in Japan: a retrospective observational study using a nationwide insurance claims database.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Anesth Analg.	6. 最初と最後の頁 1633-1640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1213/ANE.0000000000002734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Usui T, Funagoshi M, Seto K, Ide K, Tanaka S, Kawakami K.	4. 巻 13
2. 論文標題 Persistence of and switches from teriparatide treatment among women and men with osteoporosis in the real world: A claims database analysis.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arch Osteoporos.	6. 最初と最後の頁 54 (8p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11657-018-0466-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida S, Ide K, Takeuchi M, Kawakami K.	4. 巻 29
2. 論文標題 Prenatal and early-life antibiotic use and risk of childhood asthma: A retrospective cohort study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pediatr Allergy Immunol.	6. 最初と最後の頁 490-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pai.12902	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Seto K, Usui T, Tanaka S, Kawakami K.	4. 巻 97
2. 論文標題 Correlation between dental conditions and comorbidities in an elderly Japanese population: A cross-sectional study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medicine.	6. 最初と最後の頁 e11075 (5p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000011075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 及川久遠, 井出和希, 細野智之, 芥川麻衣子, 川崎洋平, 渡辺 美智子.	4. 巻 66
2. 論文標題 高校数学における統計教育の教材開発とその実践.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 統計数理.	6. 最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Ono Y, Furukawa TA.	4. 巻 13
2. 論文標題 Distribution of item responses and total item scores for the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D): data from the Irish Longitudinal Study on Ageing (TILDA).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE.	6. 最初と最後の頁 e0202607 (12p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0202607	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomitaka S, Kawasaki Y, Ide K, Akutagawa M, Ono Y, Furukawa TA.	4. 巻 9
2. 論文標題 Stability of the distribution of Patient Health Questionnaire-9 Scores against age in the general population: Data from the national health and nutrition examination survey.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Front Psychiatry.	6. 最初と最後の頁 390 (8p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2018.00390	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iketani R, Ide K, Yamada H, Kawasaki Y, Masaki N.	4. 巻 20
2. 論文標題 Regional differences in the safety of telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C in Japan: a retrospective pilot cohort study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Jpn J Drug Inform.	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11256/jjdi.20.57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miki R, Becker CB, Ide K, Kawakami K.	4. 巻 79
2. 論文標題 Timing and facilitation of advanced directives in Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arch Gerontol Geriatr.	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2018.08.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawasoe S, Ide K, Usui T, Kubozono T, Yoshifuku S, Miyahara H, Maenohara S, Ohishi M, Kawakami K.	4. 巻 82
2. 論文標題 Serum triglycerides are associated with arterial stiffness in subjects with low low-density lipoprotein cholesterol levels.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Circ J.	6. 最初と最後の頁 3052-3057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1253/circj.CJ-18-0607	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Takeuchi M, Seki T, Kawakami K.	4. 巻 54
2. 論文標題 Effect of regular exercise and functional beverages on changes in body weight and waist circumference in healthy Japanese subjects.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medicina (Kaunas).	6. 最初と最後の頁 64 (10p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/medicina54040064	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Matsuoka N, Yamada H, Furushima D, Kawakami K.	4. 巻 23
2. 論文標題 Effects of tea catechins on Alzheimer ' s disease: Recent updates and perspectives.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Molecules.	6. 最初と最後の頁 2357 (13p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules23092357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide K, Matsuoka N, Kawakami K.	4. 巻 25
2. 論文標題 Is the use of proton-pump inhibitors a risk factor for Alzheimer 's disease? Molecular mechanisms and clinical implications.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Curr Med Chem.	6. 最初と最後の頁 2166-2174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/0929867325666180129101049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出和希, 川上浩司.	4. 巻 17
2. 論文標題 ライフコースデータとRWD: 利活用のノウハウ.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PHARMSTAGE.	6. 最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furushima D, Ide K, Yamada H.	4. 巻 23
2. 論文標題 Effect of tea catechins on influenza infection and the common cold with a focus on epidemiological/clinical studies.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Molecules.	6. 最初と最後の頁 1795 (8p)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules23071795	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 学術論文の今とこれからを考える.
3. 学会等名 オープンセミナー (分子科学研究所) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 オープンアクセス型学術誌の進展により顕在化する「Predatory Journal」問題 - 実態、動向、判断の観点 - .
3. 学会等名 NISTEP (文部科学省 科学技術・学術政策研究所) 講演会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 研究の伝え方、伝わり方 - 学術出版の変遷から考える - .
3. 学会等名 聖路加国際大学FDSD研修会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 学術出版の多様化と社会における情報の取り扱い - 新型コロナウイルス感染症にまつわる事例から考える - .
3. 学会等名 第45回日本分子生物学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 学術誌のオープンアクセス化の現状：書誌データベースを活用した記述的分析.
3. 学会等名 第24回日本医薬品情報学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希, 岸本充生.
2. 発表標題 第7回 コロナ禍における研究情報の発信を振り返る 「プレスリリース」の目利きになるう .
3. 学会等名 SpringX 超学校
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小泉志保, 井出和希, 岡田浩, Carl Becker, 當山まゆみ, 西川佳孝, 高橋由光, 中山健夫.
2. 発表標題 日本医学雑誌の投稿規定における研究公正の記述: ICMJE Recommendationsの記載項目を含めた評価.
3. 学会等名 第2回日本メディカルコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 学術誌のオープンアクセス化と課題: 書誌データベースを活用した探索的分析.
3. 学会等名 第43回日本臨床薬理学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 薬学領域における「Predatory Journal」の現状: 書誌データベースを用いた探索的分析.
3. 学会等名 日本薬学会第143年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症関連プレプリントの公開動向と薬学関連領域に対する影響：探索的事例検討.
3. 学会等名 日本薬学会第142年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本城靖之, 井出和希, 武地一.
2. 発表標題 デイサービスによるアルツハイマー型認知症への介入効果.
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出和希, 小柴 等.
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症関連プレプリントの公開動向とその影響：探索的事例検討.
3. 学会等名 第42回日本臨床薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種および接種証明の倫理的・社会的側面.
3. 学会等名 第34回日本リスク学会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出和希, 八田太一, 藤田みさお.
2. 発表標題 幹細胞研究・再生医療領域におけるPredatory Journalの実態 : 書誌データベースを用いた定量的分析.
3. 学会等名 第32回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出和希, 八田太一, 藤田みさお.
2. 発表標題 幹細胞研究・再生医療領域におけるPredatory Journalの動向 : 書誌データベースを用いた探索的評価.
3. 学会等名 第41回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 健康情報の根拠となる学術誌の質の評価 : 書誌データベースを活用した量的分析.
3. 学会等名 第20回日本抗加齢医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 論文という営みから研究者を知り、読み解く.
3. 学会等名 京大100人論文 : オンライン全国拡大版
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 デジタルヘルス時代の疫学と人間の行方.
3. 学会等名 サイバーデモクラシー ライトユニット第2回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 祐野恵, 川上浩司, 森田朗, 平川秀幸, 吉田都美, 井出和希.
2. 発表標題 学校健診情報の可視化と活用 - 自治体保有の情報活用に向けた基盤整備 - .
3. 学会等名 第2回政策のための科学オープンフォーラム ~ 科学による政策課題解決への挑戦: たゆまぬ共創・協働 ~
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出和希, 吉田都美, 尾板靖子, 川上浩司.
2. 発表標題 健康情報の利活用・パーソナルヘルスレコードに対する認識と希望: 全国47都道府県を対象とした質問紙調査.
3. 学会等名 日本学校保健学会 第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ide K, Seto K, Usui T, Tanaka S, Kawakami K.
2. 発表標題 Increased number of dental caries correlated with dementia: An observational study using a multicenter database in Japan.
3. 学会等名 19th Scientific Meeting of the Japanese Society of Anti-Aging Medicine
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Joo WJ, Ide K, Nishiyama K, Tanaka H, Tsuchiya J, Ito N, Yoshida K, Kawakami K.
2. 発表標題 Prediction of neurologic outcome after extracorporeal cardiopulmonary resuscitation.
3. 学会等名 48th Critical Care Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 研究(者)倫理の今: ハゲタカって何?
3. 学会等名 京都大学アカデミックデイ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮野公樹, 井出和希.
2. 発表標題 勉強思考、研究志向、学問思考.
3. 学会等名 京都大学アカデミックデイ2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 臨床研究計画前にResearch Questionからシノプシスを作成しようー失敗しない臨床研究計画立案に向けてー.
3. 学会等名 第29回日本医療薬学会年会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井出和希, 尾板靖子, 川上浩司.
2. 発表標題 健康・保健教育の向上を目標とする学校健診情報の還元に向けた保護者ニーズの探索.
3. 学会等名 日本学校保健学会 第65回学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 臨床研究計画前にResearch Questionからシノプシスを作成しようー失敗しない臨床研究計画立案に向けてー.
3. 学会等名 第28回日本医療薬学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ide K, Yoshida S, Kimura T, Kawakami K.
2. 発表標題 General perceptions towards personal health record in Japan: A exploratory survey.
3. 学会等名 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井出和希.
2. 発表標題 学校健診データから将来の健康を考える.
3. 学会等名 京都大学アカデミックデイ2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 碓井知子, 竹内正人, 井出和希, 川上浩司.
2. 発表標題 労働者の性・年齢別の体重・腹囲変化と運動習慣、脂肪領域特定保健用食品飲料の飲用頻度の影響.
3. 学会等名 第21回日本病態栄養学会年次学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井出和希, 米倉寛, 川崎洋平, 川上浩司.
2. 発表標題 低リスク手術前の血液検査に影響を及ぼす患者・施設因子の比較： ベイズ流の統計学的手法によるアプローチ.
3. 学会等名 日本薬学会第138年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東川玲, 井出和希, 祐野 恵.
2. 発表標題 自治体における健康情報の活用と政策立案.
3. 学会等名 第32回自治体学会青森大会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水野佳世子, 竹内正人, 金沢佑治, 北村守正, 井出和希, 大森孝一, 川上浩司.
2. 発表標題 甲状腺癌手術時の術中反回神経モニタリングの有用性についての検討 - 過去起点コホート研究 - .
3. 学会等名 日本臨床疫学会 第2回年次学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島雅之, 井出和希, 川上浩司.
2. 発表標題 切除不能結腸直腸がんへのレゴラフェニブ投与開始量と生存期間との関連: 過去起点コホート研究.
3. 学会等名 日本臨床疫学会 第2回年次学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ide K, Seto K, Usui T, Tanaka S, Kawakami K.
2. 発表標題 Correlation between dental conditions and dementia: A cross-sectional study of an elderly Japanese population.
3. 学会等名 The 2nd Annual Meeting of the Society for Clinical Epidemiology
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井出和希, 米倉寛, 川崎洋平, 川上浩司.
2. 発表標題 低リスク手術前の血液検査に対する薬剤・施設因子の影響: 正則化回帰モデルによる比較検討.
3. 学会等名 第68回 日本薬学会近畿支部総会・大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田都美, 井出和希, 尾板靖子, 川上浩司.
2. 発表標題 出生体重と中学3年時の肥満との関連: 母子保健情報と学校健診情報の接続による疫学研究.
3. 学会等名 日本学校保健学会 第65回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川添 晋, 尾板靖子, 井出和希, 吉田都美, 川上浩司.
2. 発表標題 学校健診データベース化及び個人・自治体向けレポート返却の取組み.
3. 学会等名 日本学校保健学会 第65回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井出和希, 吉田都美, 尾板靖子, 川上浩司.
2. 発表標題 学校健診レポートの有用性と健康情報の利活用に対する認識: 連携17自治体を対象とした質問紙調査.
3. 学会等名 日本学校保健学会 第65回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 出口康夫, 大庭弘継 編. 井出和希 (共著).	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 354
3. 書名 軍事研究を哲学する - 科学技術とデュアルユース - (分担分: 先端生命科学と情報技術の進展).	

1. 著者名 熊澤峰夫, 上野ふき, 久木田水生, 井出和希, 渡辺彩加, 村上祐子, 吉岡 (小林) 徹, 安藤悠太, 中村秀規, 杉谷和哉, 鈴木秀憲, 東原紘道, 宮野公樹.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ユニオン・エー	5. 総ページ数 147
3. 書名 学問の在り方 - 真理探究、学会、評価をめぐる省察 - .	

1. 著者名 Ide K, Kawasaki Y, Kawakami K, Yamada H.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 478
3. 書名 Effects of bioactive components of green tea on Alzheimer ' s disease. In. Atta-ur-Rahman, eds. Studies in Natural Products Chemistry (vol. 56).	

〔産業財産権〕

〔その他〕

個人ウェブページ（研究内容および研究成果のアーカイブ、情報発信） https://www.ide-research.com/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------